

剣友会通信

第1号(創刊時)
令和5年7月31日
杉高剣友会
事務局発行

(会長挨拶) 創刊にあたって

会長 庄田 幸平



15期生の庄田幸平です。剣道部O G O Bの皆さまにおかれましては、ご健勝のことと存じます。

この度、剣友会通信の発刊に当たり、僣越ながらご挨拶申し上げます。

杉高剣友会は、昭和49年に7期生の坂本正城先輩が中心になられて発足しました。その後暫くはあまり活動できませんでした。平成25年から有志による活動を再開しており、剣友会も発足以来実に50年にもなりました。

現在、コロナの関係で活動が低調になっていますが、剣友会総会の開催やゴルフ同好会等の活動・各種ミーティングを行っております。現在も剣道を続けておられる方々や数十年ぶりの稽古を再開を果た

された方々と杉高での在校生達との稽古会や個別の稽古会を開催したり、オンライン飲み会なども開催しております。

同じ釜の飯を食った仲間達、懐かしい仲間達との交流が出来ますよう、是非皆様のご参加をお待ちしています。

杉高剣道部をご卒業された方であれば特別に資格も義務も有りません。もちろん剣道をやっていないくても大丈夫です。

お気軽に事務局までお問合せいただきお会い出来るのを楽しみにしています。

少しでも多くの方がお会い出来るようになることを祈念して、ご挨拶に代えさせていただきます。

(活動報告1) 現役部員との稽古会を再開

新型コロナウイルスのオミクロン株による第七波の流行がようやく収まった昨年11月28日に4年振りとなる杉高剣道部現役生の稽古に庄田、前田、武田、平林の4

名が参加してきました。

剣道部の顧問は石川先生から伊藤先生に、現役生も代が入れ替わり、全員初対面の稽古会となりました。

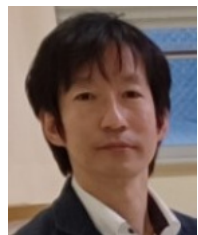
また一昨年まで外部指導員としてご指導をされていた馬淵先生はご帰郷され、現在は外部指導員は不在となっております。

訪問時の剣道部員は総勢21名、うち男子12名、女子9名、経験者は約半数とのことでした。

伊藤先生のご指導の下、高体連主催の各種公式試合、全国高等学校剣道大会を目指して精進されており、しっかりとした剣道で大変有意義な稽古会となりました。



(活動報告2) 伊藤顧問と面談



約4年前から剣道部顧問をされている伊藤昌彦先生は

地歴公民科の主任教諭で、東京都高等学校「倫理」「公共」研究会の事務局長を務められております。そして、なんと杉高剣道部31期のO Bです！

ご出身は中野区、剣道は幼少より南中野剣道クラブにて始められたとのことです。杉高の前は都立江北高校に赴任され、母校に戻って現在に至られております。

杉高剣友会の一員(O Bは自動的に剣友会メンバーです)である伊藤先生を皆さんでバックアップしていきましょう。



後列左から前田さん(18期)、武田さん(18期)、前列左から平林さん(25期)、庄田会長(15期)、伊藤顧問 (令和4年11月28日訪問)

剣友会・運営メンバー

- 会長 庄田 幸平 (15期生)
- 副会長 岩室 正巳 (17期生)
- 事務局長 前田 達雄 (18期生)
- 副事務局長 武田 強 (18期生)
- 栗原 泰子 (20期生)
- 岩室 勇人 (25期生)

剣友会本部 「珈琲家 香七絵」

17期生の岩室副会長が営まれている珈琲豆焙煎小売と喫茶の店舗が剣友会本部です。ここに集まって会報の編集会議や稽古会やイベントの打合せを行っています。

お客様にあつた珈琲豆を独自の焙煎法で提供されており、地域コミュニティに溶け込んだカフェとして親しまれています。ぜひ一度お越しください。

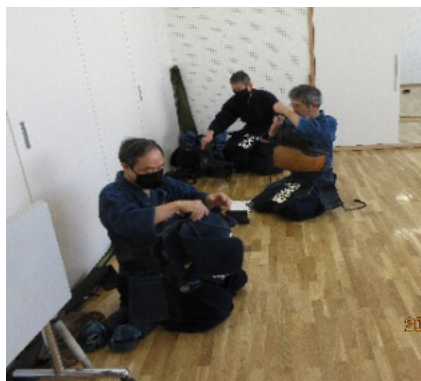


後列左・庄田会長、栗原さん、石川前顧問、前列左・岩室さん、前田さん
(所在: 〒180-0012 武蔵野市緑町2-4-38 電話: 0422-36-0201 定休・火水)

OGOB同士の交流

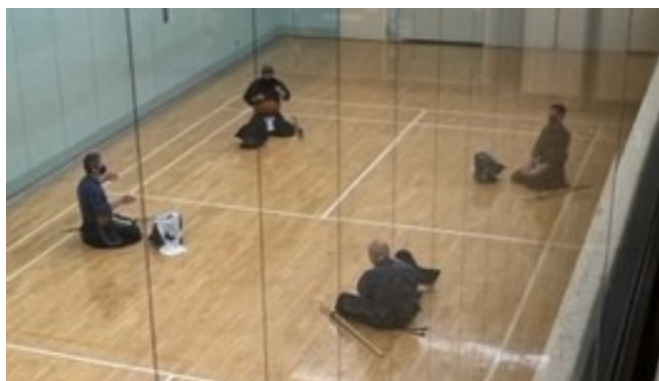
剣道の稽古会

現在剣道をされているOGOBの方々にお声掛けをして、不定期で有志の稽古会を行いました。場所は荻窪地域区民センター体育館などの公共施設の空きを探してお借りしています。



OGOB以外の外部の方にもお声掛けし、15期生の荘田会長と18期の武田さんが所属されている大義塾の方にもご参加いただきました。また17期生の岩室さんが所属されている吉祥寺剣道会には出稽古をさせて頂きました。今後はこれから剣道を再開されたいと思われるOGOB

の方々へにお試しや事前準備としての稽古会なども出来ればと考えております。見学だけでも大歓迎ですのでぜひご参加ください。



オンライン飲み会

もうひとつの剣友会

オンライン飲み会

コロナ禍のまっただ中、荘田会長よりオンライン飲み会の発案がありました。20期生の平野さんが手続きを下さり、毎回六から七名の方が参加して下さいました。乾杯から始まり、近況報告と続き楽しい時間でした。

どこからでも参加出来る利点を生かして18期生の武田さんが、剣道場から実況中継して下さいました。同じく18期生の島さんのお孫さんの飛び入りもありました。女子では21期生と22期生の方が参加して下さいました。

コロナも落ち着いたとは言え、まだ大人数で集まらないのが現実です。早くリアルな剣友会が開催される日が待ち遠しいですね。



OGOBの近況紹介

12期生 大久保さん



杉高剣友会の皆様へ
12期生の大久保と申します。

剣友会の幹事さん達の活動の努力のお陰で会の活動が続いております。

中には卒業以来の長いブランクが有っても昇段される方が出てきていることは喜ばしい限りです。近年は合宿が開催されない事で3年生はガツカリされている事でしょう。合宿は後輩たちと共に稽古をし食事を囲み風呂に入り、親睦を深めることが出来ます。

その事が何十年経ってもあの頃の思い出として共有できると会をより身近に感じられるようになると思います。

これからの合宿に向けた取り組みを皆様に議論していただきましたら幸いです。

杉高剣友会 大久保 清



15期生・16期生 山田温泉夏合宿 (長野県・山田牧場にて)
(参加OB: 7期生 坂本先輩、13期生 高木先輩と松山先輩)

7期生故・坂本さん お手紙のご紹介

都立杉並高校剣道部OGOB会
は昭和49年6月に発足し、この
剣友会を規約から現役の育成強化

等まで策定された諸先輩方の代表
として初代会長の7期生故・坂
本正城先輩がいらっしゃる。本
正城先輩がいらっしゃる。本
(残念ながら平成24年に逝去さ
れました)

その坂本先輩より、当時10年

目を迎えようとした昭和58年に
事務局宛に「送付頂いたお手紙を
40年後のいま、」披露したいと
思います。

坂本先輩は、成田空港の管制官
として長年勤務されており千葉に

お住まいでした。そして、
ご尊父様が漫画家という
ことで挿絵を描くのもお
好きだったのでしよう。
重要なことはお手紙に
もあります様に、これか
らも剣友会を続けること

が必要だということですね。

左の写真は昭和44年の須坂夏
合宿道場前の撮影です。この剣友
会が発足できたのは、昭和42年
開始以来の夏合宿参加OB陣8名
の種まきの結果だと個人的には考
えております。私は7期生坂本
先輩、12期生大久保先輩、13期
生高木先輩と松山先輩、15期生
荘田先輩と栗原先輩、16期生堀
内先輩と鈴木先輩の8名の方をご
紹介したいと思います。

事務局 前田(18期生)

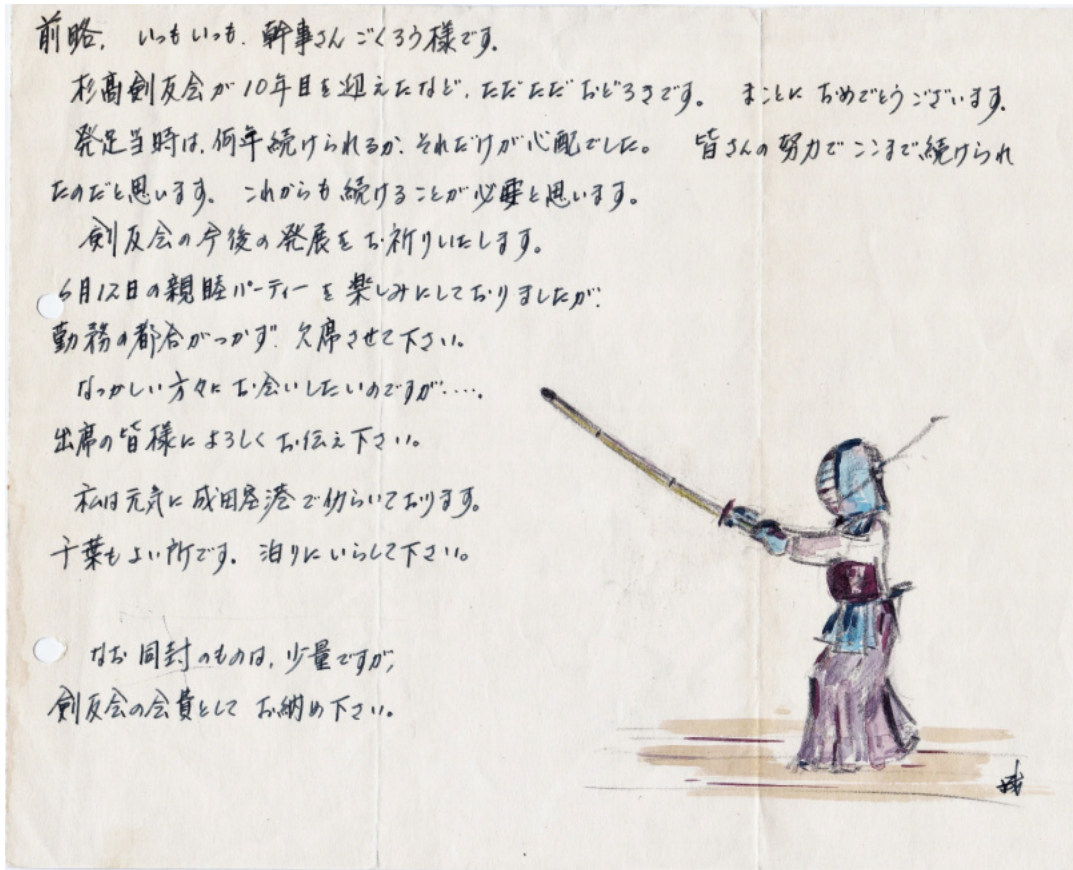
リバ剣レポート(1)

「リバ剣」という言葉を「存知
でしょうか?」リバイバル剣士
の略で、ブランクを挟んで剣道を
再開される方々の総称です。

このコラムではリバ剣をされた
OGOBの方々の体験談をシリ
ズで掲載していく予定です。
第一回は17期生の岩室さんの
体験レポートです。

岩室さんは、平成28年11月6日
に行われた杉高剣友会第11回総
会のプログラムの中で、「プロジェ
クトY(やれば出来る)」と題し
60歳にして剣道を復活すること
を宣言されました。

その結果、杉高時代の二段から
40年以上のブランクを経て還暦
で再開、8年後の2022年4月
までに、見事に三段、四段、五段
とパーフェクト昇段を果たされま
した。
それではご本人の体験レポートを
お読みください。



16期生・17期生 須坂夏合宿
(参加OB: 最前列左から12期生 大久保先輩、
2番目が7期生 坂本先輩、4番目が13期生 松山先輩)

プロジェクト達成への道 17期生 岩室 正巳

60歳と9か月で再開してからの事を振り返って行く訳ですが、その前に段位について自分の経験から思ったことをお話ししたいと思っています。

そもそも荘田先輩の様な教士七段とか高段者は雲の上の人という事で、論じるのもおこがましいから置いておくとして。

さて、身近なその他多勢は、初段、二段から再スタートとなるのだと思います。私は二段からです。三段を受けるに当たり昔の免状の日付等が必要になりましたが、とっくの昔に無くしていたのです。

そこで東京都剣道連盟に電話で問い合わせた所のみした、記録が・・・。今ではすべてデータベースにあるらしいのですが、私くらい古いものは手作業で紙のファイルを調べて下さいました。年金と違って消えていかなかったのです。何年何月受験した場所まで記録されていました。それを申込書に記入すればOKです。

で、私の場合三段から受けたのですけれど、会場に行って受験番

号をもらって、その日の最高齢だという事が解りましたが、61歳にもなると、何かむしう誇らしい気持ちになったことを思い出しませう。

さて、本題です。再開組の私たちにとって段位とは何なのか・・・です。

客観的な評価である段位は、あくまで「はげみ」であって、目指す所の「自分との戦いに勝つ」という事への一つの手段でしかないという事を解った事が最大の収穫だったかもしれない。

よって段位は二の次で、正しく剣道になっているかどうか、ヤクザのチャンバラになっていないかどうかを客観的な目で見てくださる位に思えば良いと思います。段位によって人の上下はありません。

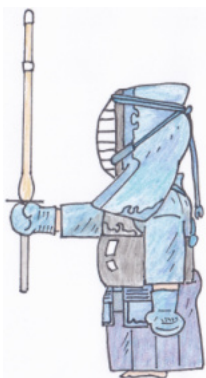
剣道の世界では高齢者は尊ばれ、二段でも先生と呼ばれます。やはり段位では人を見ません。あくまで剣道の中でのことに過ぎません。あつ、そうそう初段を受けようとしている人は、今では一級をまず受けなければなりませんので申し添えます(誰でも受かります)。その後もただ続けていけば次々関門を突破して行けます。三段、四段、

五段、まだまだ通過点です。

迷っているあなた、今始めなければ後悔しますよ。段位ではなく、体力維持さらには若返りや、体力アップが目標です。少々古いですが、「いつやるの」「○○でしょ」なのだ。(続く)

令和4年9月24日

17期生 岩室正巳



(絵・18期生 武田さん)

インタビュー

女性と剣道

この会報誌を読んでらっしゃる元女子部員、現女子部員の皆様は、女子部員のその後の話がなくてがっかりしてませんか。

卒業してからも剣道の稽古を続けるのは中々ハードルが高いと思われれます。

そんな中、大学時代も剣道を続けていた方がいらつしやいましたので、先日お話を聞かせて頂きました。

次号で紹介したいと思います。岩室さんの喫茶店には、六十歳を過ぎてから剣道を始められた女性のお客様もいらつしやいます。

これから、少しずつ記事にして行きますので、楽しみにお待ち下さい。



編集後記

長引くコロナ禍で総会などのリアルな活動がままならない中、運営メンバーの中で紙媒体で皆さんに近況を伝える案が出て、昨年10月より剣友会通信の企画と編集作業が始まりました。月一回の編集会議を経て、この度ようやく創刊号として形にすることが出来ました。今後は年一回の発行を目指していきます。内容としては現役生との交流・支援は勿論、会員の紹介や新しいコミュニケーション、親睦会のご案内など、なかなかお会いできない方にもお楽しみ頂ける内容にしていきたいと思えます。

そこで、この通信を一緒に盛り上げてくれる方を募集いたします。縦の繋がりや、人脈が広がる機会でもあります。是非お気軽に下記アドレスへご連絡を。

毎年秋に開催された総会ですが、5類になったとはいえ、まだまだ予断を許さない状況です。終息時期が来ましたら開催したいと思えますのでもう暫くお待ちください。

剣友会メールアドレス: info@sugiken.club